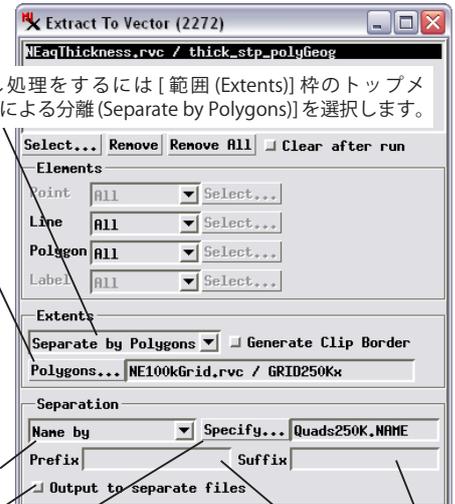


# ポリゴンによるベクタの分割

TNTmips のベクタ抜き出し処理 (「各種図形」>「抜き出し」>「ベクタ」) では、2つ目の入力ベクタオブジェクトのポリゴンを使って一度に複数個の抜き出しを行うことができます。分離するベクタの各ポリゴンに対して出力ベクタオブジェクトが1個ずつ作られます。選択したポリゴンの属性値を使って、出力ベクタ名が付けられます。出力ベクタは1つのプロジェクトファイルに格納したり、別々のプロジェクトファイルに格納することができます(その場合、ベクタオブジェクトと同じ名前が付けられます)。この複数抜き出し処理の例を下図に示しました。ある州のベクタの地下水マップを区画メッシュによって分割しています。この抜き出し処理のパラメータ設定は右の図に示してあります。最初の入力ベクタオブジェクトの属性を使って抜き出すこともできます。この場合はテクニカルガイド「図形の抜き出し：属性によるベクタの分離 (Geometric Extract: Separation of Vectors by Attribute)」を参照してください。

入力ベクタオブジェクトを選択したあと、[要素 (Elements)] 枠を使って抜き出すベクタ要素の種類を選びます。ポリゴンで抜き出す場合は、[範囲 (Extents)] 枠のメニューから [ポリゴンによる分離 (Separate by Polygons)]



ポリゴンで抜き出し処理をするには [範囲 (Extents)] 枠のトップメニューから [ポリゴンによる分離 (Separate by Polygons)] を選択します。

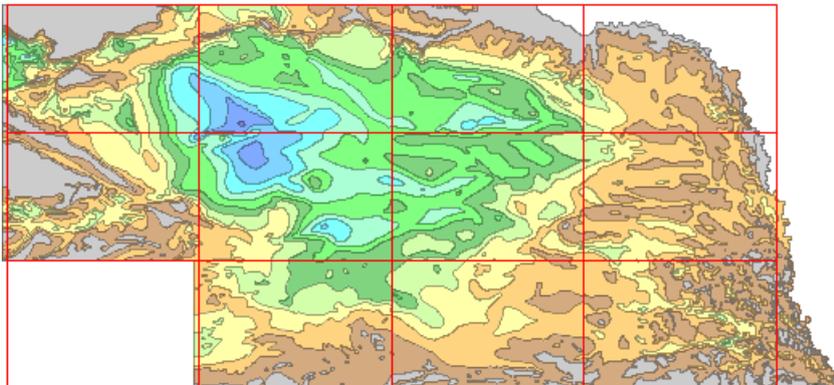
[ポリゴン (Polygons)] ボタンを押して、抜き出すポリゴンベクタオブジェクトを選びます。

[ポリゴンによる分離 (Separate by Polygons)] を選んだ場合、[分離 (Separation)] メニューの選択肢は「名前 (Name by)」となります。

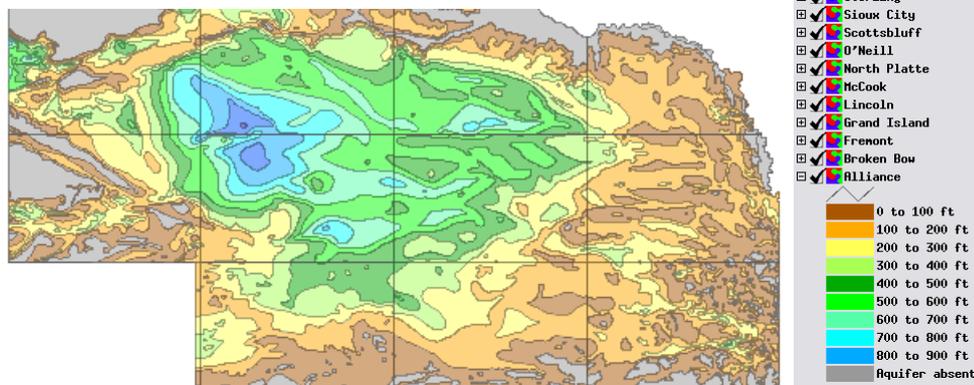
このグループボタンで、出力オブジェクトを同じプロジェクトファイルに保存するか、または別々のプロジェクトファイルに保存するかを指定します。

選択したデータベースフィールドの属性値は出力オブジェクト名を付けるために使用されます(別々のファイルに保存する場合はファイル名にも使用されます)。

接頭文字と接尾文字 (Prefix / Suffix) フィールドに入力した文字は、全てのオブジェクトの名前の前後に自動的に付けられます。



入力ベクタオブジェクトのポリゴンの色は、ネブラスカの地下水層の厚さを示しています。赤の枠線は、ポリゴンによる分割に使用するベクタオブジェクトで、25万分の1の格子ポリゴンです。



ポリゴンによって抜き出し・分割された12個の地下水層ベクタオブジェクト。この例では、各出力オブジェクトに対して [クリップ境界を生成 (Generate Clip Border)] オプションを使用しませんでした。各区画の名前をもつデータベースフィールドが出力ベクタオブジェクトの名前に使われました。図の右側の表示ウィンドウには、出力ベクタオブジェクトの地下水層厚の凡例が表示されています。

を選び、ポリゴンを含むベクタオブジェクトを選びます。するとポリゴンデータベーステーブルと抜き出した要素に付ける属性フィールドを選択するように促されます。これらの名前には接頭文字や接尾文字 (Prefix / Suffix) フィールドで指定できる接頭文字 / 接尾文字を入れることができます。複数のポリゴンが同じ属性を持つ場合、重複した出力オブジェクトは名前の末尾に自動的に番号が加えられます。

全てのパラメータを設定したら、[実行 (Run)] ボタンを押します。抜き出す要素を同じプロジェクトファイルに保存する場合、既存のファイルを選択するか、新しいプロジェクトファイルを作るように促されます。別々のファイルに出力するように設定した場合、出力プロジェクトファイルを格納するフォルダを選択または作成するように促されます。